

29amF-276

添付文書 XML を用いる医薬情報データベースの再構築－ JAPIC 型 XML データの成分データベースへの適用－

○小杉 義幸¹, 三宅 佐苗², 大森 大貴¹, 土橋 朗¹ (¹東京薬大薬, ²メディカルフロント)

【目的】医薬情報の基本となる添付文書情報は、情報通信技術 (ICT) の発達と Web 検索システムの整備によって、常に最新のものが入手できるようになり、医薬品の適正使用に大きく貢献している。一方、事故防止の観点から、特に注意が必要な薬剤 (ハイリスク薬) に関して、より迅速かつ正確に医薬情報を提供できる仕組みの構築が求められている。そこで、これまでに本学ネットワーク上に蓄積してきた医薬情報データベースを再構成して、XML の特長を生かした新たな検索システムの構築を検討した。

【方法】1. 日本医薬情報センター (JAPIC) が作成する添付文書 XML データ (医療用, 約 1 万 2 千件) を項目別に Access データベースに格納した。2. 組成・性状の項から成分情報を切り出し、収集した成分名を類似成分でグループ化して、階層化した独自の成分コードを付与した。3. 再構成した検索用と表示用の XML をもとに添付文書検索システムを作成した。4. Web サーバ (Windows Server 2008) 上に XML, XSL, CSS, JAVA, PDF などの各ファイルを配置し、システムを稼働した。

【結果・考察】Web サーバの XML 処理機能を活用することで、比較的容易に安定した検索システムが完成した。XSL を再設計することにより既存のシステムより高度な検索機能と表示機能を実現することができた。すでに構築済みの OTC 成分データベースと統合することにより、すべての医薬品が検索対象で、かつテキストで添付文書を表示可能なデータベースが構築できた。現在、成分情報をより多く持つ外部サイトへのリンクを検討中である。また、禁忌、使用上の注意、副作用、相互作用、用法・用量などの重要項目についても同様の加工法を採用することにより、有用な検索システムが構築可能と考えられる。